

令和3年度 当初予算（案）

# 主な事業の説明書

市立大曲病院



# 事業説明書

市立大曲病院事業会計

(施策の大綱) 保健・医療の充実

(施策) 地域医療体制の充実

(基本事業) 医療機能の強化

継続

課所名：市立大曲病院 管理課

『事業名』 **市立大曲病院事業（収益的支出）**

【R3年度】 **893,030** 千円 【R2年度】 **887,066** 千円 【増減額】 **5,964** 千円

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			<b>643,795</b>	<b>249,235</b>

1. **Plan**（計画：事業の目的及び目標）

地域住民のこころの健康保持のため、精神科医療を提供する。

診療科目：精神科、神経科、（内科）

病床数：120床（一般精神病棟70床、認知症病棟50床）

●目標：入院 36,500人（1日当たり100人）	一般精神病棟 21,900人（1日当たり60人）	認知症病棟 14,600人（1日当たり40人）	
外来 14,148人（1日当たり58人）	外来診療 13,068人（1日当たり54人、242日）	訪問看護 1,080人（1月平均90人）	

2. **Do**（実行：これまでの実績と成果）

- ・ 開設以来、大仙市及びその周辺地域の住民に精神医療を提供する公立病院として、住民生活を支えているが、経営の安定を図り、これからも地域になくなくてはならない病院であり続けるため、令和2年度に「市立大曲病院経営改革基本方針」を策定している。
- ・ 令和2年度は国の新型コロナウイルス感染拡大防止等支援金を活用し、感染疑いの入院患者用隔離室、外来患者の発熱者待避所、男子更衣室の移設、玄関へのサーモカメラの設置等整備を行った。その他、入院者への面会規制、来院者への検温及び問診、待合室の3密対策、手すり・ドアノブ等接触箇所の消毒強化等実施している。
- ・ 平成22年度から常勤医4名体制となり、平成26年4月から外来薬剤を院外処方にするなど、機能の充実と合理化を図っている。また、令和2年度には医師がより診療に専念できるよう医師事務作業補助者を2名配置し、診療体制の充実を図った。
- ・ 平成30年度から市の認知症初期集中支援推進事業に参画し、認知症の予防や家族への支援を行っている。  
事業実施状況 H30年度 8件、R1年度 7件、R2年度 6件（R2.12月までの実績）

3. **Check**（評価：問題と課題）

- ・ 医療施策が「入院医療中心から地域生活中心へ」と転換していることや地域の介護施設の充実、人口減少などにより入院患者数が減少傾向にある。今後も地域に必要な病院であり続けるために、病院を取り巻く環境の変化に対応していく必要がある。

4. **Act**（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）

- ・ 地域のニーズと時代に沿った医療の提供に努める。
- ・ 各福祉施設や医療機関、地域包括支援センターなど認知症の予防や支援を業務とする機関との連携を深め、市の認知症初期集中支援推進事業の一端を担い、専門病院として積極的な役割を果たしていく。

具体的な事業

新患に最初に接する受付段階から適切な医療優先度を考慮して患者の支援を行うとともに、地域と連携して入院及び退院の支援を実施する部署として多職種連携の「地域連携・医療相談室」の設置を進める。

訪問看護部門の位置づけを明確にし、今後増加が予想される自立支援通院患者や在宅通院患者に対して積極的に働きかけ、支援機能を強化する。

【収益的収支予算】

病院事業収益	921,886 千円	
医業収益	643,115 千円	（うち入院 557,333千円、外来 81,782千円）
医業外収益	278,771 千円	（うち一般会計負担金 249,235千円）
病院事業費用	893,030 千円	
医業費用	871,531 千円	（うち給与費 597,565千円）
医業外費用	18,799 千円	（うち企業債支払利息 18,434千円）
特別損失	1,200 千円	
予備費	1,500 千円	

# 事 業 説 明 書

市立大曲病院事業会計

(施策の大綱) 保健・医療の充実

(施策) 地域医療体制の充実

(基本事業) 医療機能の強化

継続

課所名：市立大曲病院 管理課

『事業名』 **市立大曲病院事業（資本的支出）**

【R3年度】 **202,365** 千円 【R2年度】 **108,761** 千円 【増減額】 **93,604** 千円

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		<b>88,400</b>	<b>41,219</b>	<b>72,746</b>

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

建物、設備等固定資産の改良を行い、地域住民に安定した精神科医療の提供を行う。

診療科目：精神科、神経科、（内科）

病床数：120床（一般精神病棟70床、認知症病棟50床）

平成8年12月、現建物での診療開始（築24年経過）

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・ 令和2年度は国の新型コロナウイルス感染拡大防止等支援金を活用し、感染疑いの入院患者用隔離室、外来患者の発熱者待避所、男子更衣室の移設、玄関へのサーモカメラの設置等整備を行った。また、必要に応じて器械備品等の更新を行っている。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

- ・ 平成8年12月の竣工から24年以上経過しており、近年維持補修費が増加している。病院運営を継続しながら設備の更新を行う必要があることから、施設設備の更新計画を策定し年次計画で改修する必要がある。特に空調設備については劣化が著しく突然動作不全に陥る可能性が高いことから更新の緊急度は極めて高い。

4. A c t（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）

- 空調設備（熱源機器、外調機、ファンコイルユニット、中央監視機器）の更新を行う。

- ・ 工期 令和3年5月～令和4年8月 (単位 千円)

総事業費	令和3年度 (30%)	令和4年度 (70%)
294,896	88,468	206,428
	5～2月 熱源機器	
	9～10月 空調機（外調機）	4～6月 空調機（外調機）
	9～3月 ファンコイル	4～6月 ファンコイル
	9～3月 中央監視機器	4～8月 中央監視機器

- ・ 財源 病院事業債 294,800千円（うち、令和3年度分 88,400千円）  
償還期間 10年

【資本的収支予算】

資本的収入	161,146 千円	
他会計繰入金	72,746 千円	(一般会計出資金)
企業債	88,400 千円	(空調更新)
資本的支出	202,365 千円	
建設改良費	92,245 千円	(空調機器更新88,469千円ほか)
企業債償還金	109,120 千円	(H6, 7, 8年度企業債元金償還分109,120千円)
予備費	1,000 千円	
(収入が支出に不足する額 41,219 千円は、過年度損益勘定留保資金等で補てんする。)		